



No. 23

10周年記念の持ち方について

- ・ 8月 28, 29日 AGMで協力表明した会員を加えた 拡大ブランチ委員会が開催され、以下のような方向づけがなされました。
  1. 早急に企画、実行委員を公募し 現ブランチ委員を含めた 実行組織をスタートさせる。
  2. 10月中に第1回の企画実行委員会をひらき、事業内容を決定、実行段階に入る。
  3. 下記素案をベースに、会員の幅広い意見の収集に努める。
  4. 資金は「増えすぎた繰越金を会員に還元する好機」と捉え、long預り金、活動資金等を留保の上これを充当する。(別会計、専任トレジャラーを置く)
- ・ 会員の自由なご意見をお寄せください。当面、現ブランチ委員まで。

10周年行事等のMENU-素案

A 指導者等招請	'94. 9. 10? 頃 -9. 25 (候補)ビル・アイアランド と ジェニファー・ウィルソン(ピアニスト) (サマースクールでのコンタクトでは実現可能の感触)
a 地方での特別クラス	9. 10? 頃 -9. 21 半日or1泊 3, 4ヶ所可能か
b 特別クラス(東京)	9. 23 - 24 キャンプ形式 ミュージッククラスも ミュージシャンはジェニファー プラス 1(交渉)
B 記念ボール	'94. 9. 25 東京 ミュージシャンは上記プラス ブランチ メンバー等
C 記念新曲	公募 '93 秋?
D ブランチ マーク	公募 '93 秋? バッジ、年報表紙、記念グッズ?
E 記念誌	'94 年報を記念号に 歴史、記念曲デスクリプション等

10周年企画、実行委員の募集

- 記念事業の実行組織の一員として 協力して頂ける方を 募集します。
- ・ 例によって無報酬のボランティア活動です。
  - ・ 9月中に 現ブランチ委員にお申し出ください。
  - ・ コレヤリタイとの希望があれば 同時をお願いします。但し---
  - ・ 実際の役割は ブランチ委員のほうで 調整させていただきます。

全国レクリエーション大会東京大会 スコティッシュ・ダンス・コース案内

日時 93年9月25日(土) 9.30-16.30

場所 武蔵野総合体育館 JR中央線三鷹駅北口からバス10分・徒歩1.8km

武蔵野市吉祥寺北町 5-11-20 TEL 0422-56-2200

1. サーモンオレンジ色の電車はどれに乗っても三鷹駅に停車します。
2. 三鷹駅北口からのバス 乗場①番 鷹01北裏・鷹02武蔵関駅・鷹03田無橋場行き ¥180 『武蔵野市役所』下車。

会費 前売り ¥1,000。

当日売り 都民は ¥1,000、そうでない人は ¥3,000。

前売り券はランチ事務局にもありますのでお問い合わせください。

収容人員 約350名。

内容 午前…講習会 講師：松橋順子さん ピアニスト：小海弘子さん。

講習曲 Sugar Candie (32S) Flowers of Edinburgh (32R)

Machine without Horses (32J)の3曲。

午後…東京都フォークダンス連盟によるスコティッシュ・ダンスパーティ。

いままで日本FD連盟・都FD連盟などから発表された踊りです。

その他 講習曲を含む RSCDSのテープおよびBook (30 Popular Dances)を、当日あわせて ¥2,000で即売いたします。

川分康博さん・林浩子さんがバス……RSCDS Summer School 1993

セントアンドリュースのサマースクール、ことしは前期に6名、後期8名の計14名が参加しました。スコットランドもおかしな天候が続き、4月から7月までいい天気だね、というのは2日しかなかったとの情報もあって、防寒対策を心配しながら出かけた方もおりました。前期はかの地特有の目まぐるしい空模様はあっても晴天にめぐまれましたが、後期は雨もよいが続きました。不景気がセントアンドリュースの町にもおよび、ところどころ閉店があったりしていました。

(サマースクールとスコットランドの感想は次号でどなたかに報告していただくことにします)

今回のサマースクールで、川分康博さん(関西 WHD)・林浩子さん(TS SCD)がPreliminary Examinationを受験され、お二人とも予想に違わずパスしました。おめでとうございます。さらに上位に向かって励まれることを願っております。

東京ランチ年会報No. 10の訂正

年会報No. 10をつぎのとおり訂正します。

名簿追加	海保 貴江	285	佐倉市城 204-349	043-485-8579
	小泉 節子	330	大宮市中川 347-4	048-687-6329
	継山 雍子	285	佐倉市城 204-305	* * 486-5661
	難波江 修身	467	名・瑞穂区弥富町清水ヶ岡54-7	052-951-9205
	林 和子	350-02	鶴ヶ島市藤金 67-38	0492-86-0339
	松本 時子	361	行田市白川戸 296-2	0485-54-7013
	森田 敦子	345	埼・宮代町川端 2-5-37	0480-34-6030

(以上により、年次会員 212名、長期会員 124名、終身会員 3名、合計 339名です)

住所変更	大竹 美恵子	962	須賀川市陣場町 23-5/105	0248-72-8012
------	--------	-----	------------------	--------------

8名(長期会員継続1名含む)の郵便振替払込票が行方不明となり、探し回ったすえ、誤配先をみつけることができました。RSCDS 本部への追加登録も終わりましたので、ブックは少々遅れますが、かならずお送りいたします。上記7名の方はブランチ年会報記載に間に合わず、申し訳ありません。お許し願いたいと存じます。

### ミスタ・アレック・ヘイの思い出

アレック・ヘイがニュージーランド・オークランドで亡くなりました。フォーメーション"Set and Link"を考え出した人で、Book 23 の"The Dean Bridge of Edinburgh"の作者として知られています。3年前に会ったとき、脚も弱くなって、パーティではイスに座りみんなの踊りぶりを楽しむ風情でした。参加者がかわるがわるアレックにあいさつするのを見て、こちらでは大御所として敬意をはらわれているのだな、と感じました。約百曲ほどの作品がありながら、出版物にするのを好まず、親しい人に限って知らせるというアレックでした。頑固・人見知りする人だ、ときいていましたので、恐る恐る疑問点を尋ねたところ、とても気さくに答えてくれました。そして『きみ、Pas de basque をもうちょっと良くした方がいいよ、Strathspeyはまあまあだけど』

ことし72歳のアレックはスコットランドに生まれ、カナダに渡ったあと、気候のいいNZで余生をおくっていました。とくに悪い病気ではなく、風邪をひいて寝ている間に眠るように息をひきとり、みなびっくりした、とのことです。(Tom)

### **本部短信**

クレメント篤子さんの執行評議会レポート内容を加えてお知らせします。

- 執行評議会(5/8) 昨年12月19日に急死した調査出版委員のトム・スティールに、全員で弔意を表わした。
- 総括委員会(2/13, 4/3) 新Affiliated Group…ハイ・ワイカムのグループとブダベスト・スコティッシュ・ダンス・クラブが新Affiliated Groupとして承認された。
  2. 各委員会委員長の選出は執行評議会で行なっていたが、人物をよく知らない執行評議会よりも各委員会で選出すべき、という提案がなされ、採決の結果、各委員会内で選出することとなった。
  3. パース・ブランチから、1994年11月にパースでAGMを開催したいとの招請があり、委員会はありがたくこれを受け入れることとした。
- 財務委員会(2/13) Book 16 のLP, カセットの価格は£8とする。
  2. 本部事務室の改装がほぼ終り、2万ポンド弱の費用がかかった。(什器備品更新のための寄付願については、前号のブランチレターでお知らせ済み)
- 調査出版委員会(1/16, 2/21) 委員長から、急死した委員トム・スティールの業績が述べられ、とくに新マニュアル作成に大きな関与があったと、弔意が述べられた。
  2. サッシュ着用方法を、次号のプリティンに掲載する。
  3. 執行評議会では、Book 37 はLPがよく売れたため Book 16もCD化しなかったと答弁があった。すると、即座に3人の委員からLP継続販売を希望する声があがった。Book 38 (1994)はLPとカセットになるが、状況が変われば将来CDもあり得る。

4. Book 38 のダンス内容は、1/16に候補曲を16に絞り、ついで2/21、8曲を決定した。ダンス名と作者はつぎのとおり。

Follow Me Home	Ellen D Briscoe
Peggy Dewar	Jon Wright
Back to the Fireside	Roy Goldring
Summer Wooing	Alan MacPherson
A Trip to the Drakensberg	Barbara Bradley
Miss Florence Adams	John Drewry
My Friend Joe	Bob Campbell (亡くなったのは2/26)
Craigmoor	Edward Hatchings

5. マニュアルに Petronella Turnについての記述がない、との2通のレターがあり（一つはクレメント篤子さんから）、将来マニュアルに追記することで一致した。マニュアル関係では、p 6.58で 2nd cplの方向誤りの指摘、Strathspey Poussetteの記述で質問があった。

6. "Tibby Fowler O' the Glen", "Wisp of Thistle", "Margaret Parker's Strathspey" の踊り方について質問あり、回答した。

○試験委員会(1/9) 北アメリカに試験官を、についてはジョン・ミドルトンを中心に可能性を検討する。

2. ミス・イエーツから1992ニュージールランド・ツアーの報告あり。ウィンター・スクールをはじめ、N.Z.各地でミス・シム（ピアニスト）とともに大いに歓迎された。オークランドとクライストチャーチでExamination を実施し、のべ34のクラスで指導した。ミス・イエーツの感想は、N.Z.のスコティッシュ・カントリー・ダンシングは健全(Healthy State) であるとのこと。

3. ミュージック・コース1994 新しいピアニストとアコーディオニストのためのミュージック・コースを、1994年5月20日（金）-22日（日）に開催することで合意した。

#### Group Notice Board

1993/ 9/19 (日) 13.30-17.00 アイリス 第4回Scottish Ball ¥700 坂戸・勝呂公民館  
(東上線若葉駅バス10分) 0492-81-6427 渡辺清一

1993/10/17 (日) St Andrew Society of Yokohama & Tokyo 第11回ハイランド・ゲームズ  
10.30-16 上野学園草加キャンパス(東武・松原団地駅西口から送迎バス)  
¥1,200 11-15 時までカントリーダンス・タイム(オープンエア)。  
03-3814-0771 岡田昌子(Tokyo SBBC/BBH) 詳しくは同封資料参照

1993/11/14 (日) 10.30-16.00 スィッスル・ソサエティー 5周年パーティ ホテル・ブエナビスタ(松本駅5分) ¥8,000 参加締切り10/10 0263-92-4673 中島信人

1993/11/28 (日) 12.00-16.00 赤羽SCDC Late Autumn Ball 北区浮間区民センター  
(埼京線北赤羽駅8分) ¥500 0484-45-1527 五十嵐成子

4. マニュアルの発行にともない、"The Syllabus for Teaching Beginners"を再版前に見直すことで合意した。

○執行評議会で、ソサエティ・ブリティンからランチ・レポートが省かれたことに関し、他のランチの様子がわからない、ブリティンへの興味半減、の意見が述べられた。再びブリティンにランチ・レポートを掲載する案が検討されることになった。

<ダンシング・イン・オースト・ホーフスタット>

アード・ボーデ

Dancing in

by Aad Boode

oost | hoofdstad

東 | 京

To Kyoto

アード・ボーデさんはオランダ・デルフト・ランチのセクレタリで、KLMオランダ航空本社の極東地区担当部長を勤められています。本文は同ランチのブリティン93年3月号から転載しました。

アムステルダムから11時間の飛行後、93年2月27日(土)の朝9時30分、KLMオランダ航空861便は成田空港に着陸しました。

そして午後6時、わたしは“サンアラザ”、つまり東京スコティッシュ・ブルー・ベル・クラブ(SBBC)の例会場にいたのです。事前に案内図をもらっていたので、サンアラザ・ビルは難なくみつけることができました。じっさい、中野駅からは目と鼻の先でした。会場に着くと、SBBCのティーチャー岡田昌子さんが、わたしを会員の皆さんにきちんと紹介してくれました。2セットで、男女はほぼ同数でした。ウェールズの男性1人を除いてすべて日本人で、セントアンドリュースのサマースクールで顔を合わせた人も、何人かおりました。

ここでは資格を持った会員が、分担してダンスを指導していました。佐久間恵子さん、奥村尚子さん、牧野晴美さん、中村直香さんと秋元千枝さんです。ステップ練習もあり、これは毎回通例とのことでした。わたしもなにかやってほしいと頼まれ、“The Reel of the Royal Scots”を選びました。二十代、三十代の人ばかりで、まさにヤングなグループでした。

例会終了後、ほとんどの会員はすぐ近くのレストランで“寿司で一杯”につきあい、そのあと半数は帰宅、わたしはといえば、残りの人たちとコーヒーにしました。

たいへん楽しいイブニングであり、大いに歓迎されました。岡田さん、内藤愈吉生さん、そしてSBBCの会員の皆さん、どうもありがとうございます。5月の10周年記念行事が盛会となるよう、願っています。

翌日曜日の1時、こんどは東京の反対側の葛飾勤労福祉会館で、葛飾スコティッシュ・ダンス・クラブの例会に参加しました。ここを探しだせたのはラッキーでした。駅からはそれほど遠くはなかったのですが、タクシーで行ったのです。外国語はまったくダメな運転手(私だって日本語はしゃべれない)に、皆さんならどう説明しますか?でも、運転手は手持ちの地図を見たり、道ゆく人に

聞いたりし、なんども車を止めながら、なんとか例会場に着いたのです。

こども2セットでしたが、指導は日本語でした。尾身信晴さん、島尻哲三さんはじめ、会員は英語の英語を使うだけでしたが、全ダンスともウォーク・スルーがあり、わたしはちゃんと踊ることができました。葛飾のグループは複雑な非RSCDSダンスが好みようです。休憩時間には、レモネードとビスケットが出ました。土曜の夜のクラスとはまったく異なってはいましたが、わたしは十分に楽しみました。

東京ブランチ・セクレタリは、いろいろなグループの例会の場所と日取りについて、詳しいメモを送ってくれ、これはたいへん助かりました。

その週末のあとは例によって仕事ですごし、3月5日(金)自宅に着き、ドイツ・エッセンのルールボット・ダンサーズのアニュアル・ボールに間に合いました。

東京でダンシングを楽しむことができ、かの地のダンサーとまたいつか手を取りあえるよう、願っています。

("Dancing in Oost Hoofdstad" by Mr Aad Boode, from "The Rowan Tree" of March 1993, the Bulletin of RSCDS Delft Branch, The Netherlands.)

新譜紹介……"A Dancer's Miscellany Vol. III" Muriel Johnstone's Scottish Dance Band.

Scotscore SS.8 ￡7.00 演奏はすべて Full Length.

Accordion; Marian Anderson, Fiddle; Iain Fraser, Flute/Piccolo; Angela Young, Piano/Synth Bass; Muriel Johnstone, Drums; Gordon Smith.

Side A: Brechin Fancy(32R), Espie MacNabb(32J), Banks of Clyde(32S), Willie's Rare and Willie's Fair(48J), Duke of Roxburgh's Reel(24R).

Side B: Lady Charlotte Bruce(32S), Carl Cam O'er the Croft(32R), Lady Glasgow(32S), Captain Mackintosh(40R) .

(試聴評)ミス・ミリガンズ・ミセラニー(H.H.H.と略することが多い)の踊りは指定曲のない場合が多く、このようなとき、リーダーが Good Tuneを選ぶことになっている。選択肢を与えられるとかえって困るのは、さきの『好きな Book Numberを』と問われて一番多かったのがブランク、に見られるとおり、だれしもの経験である。録音音楽に頼らざるを得ないグループが、例会、ボールに選ぶダンスは、指定曲が録音されているもの、となる。H.H.H.のダンスがなじまれていないのは全世界共通のようで、『音がないから』が、その一つの理由であろう。

ミュリエル・ジョンストン(プロデューサー兼リーダー)とビル・ゾープル(サウンド・エンジニア)がこれを憂い、H.H.H.ダンス用に音楽テープの制作を意図してから4年、今回Vol. IIIが発表された。前2作と大きく異なるのは、ベースのロニー・カーリーが抜け、代わりにアンジェラ・ヤング(ロンドン支部のピアニスト)のフルート、ピッコロが加わっていることである。このため、とくにリール/ジグでたいへん豊饒な音がダンサーを包みこむ。いままで、ミュリエルの演奏はリール/ジグよりもストラススペイの方がよく、選曲とそのうねりに似た演奏とは、まさに本格派という感じを得ていた。Vol. IIIは、もちろんミュリエルの全編曲であるが、アンジェラのフルートが前面に出ていて、クィック・タイムは色彩ゆたかな演奏ばかりである。反面、前2作で示されていたストラススペイは、線が細くなったといえる。ストラススペイの出来に変わりはないが、クィッ

ク・タイムが断然よくなった、というべきか。だいたいの演奏も、ジョン・ル・カレのスパイ小説風である。つまり始めはローキーであるが、曲を追うにしたがい高揚し、ラストで最大に盛りあがるスタイルで、3rd または4th のほうが踊りとしての充実感が深まる。

"Banks of Clyde"ここではフルートなしのため、ボビー・ブラウン・バンド(カナダ)演奏のほうが、音の広がりという点ではまさる。シャープさをとるなら、ミュリエルのほう。"Willie'..."演奏楽器が徐々にふえていくという、ボビー・クロウ・バンドの"Wild Geese"(This Lasting Pride に収録)に似たスタイル。"Lady Charlotte..." ピアノの装飾音過多の感じをうける。ダンスには合っている。

"Carl Cam..." カーファフル・バンド(米国)のものど甲乙つけがたい演奏である。フィドルの力強い音が好きな人は、バーバラ・マコーエン奏するカーファフル、オーソドックスなアコーディオンが好みの方はこちら、となる。きょうはAのテープ、次回はB、というやりかたがベストか。両者の演奏を聞くと、ベースの有無(カーファフル・バンドのベーシストはロバート・マコーエン)が案外重要であることがわかる。もっともダンシングに入ってしまうと、そんなことを気にする人はだれもない。"Lady Glasgow"もいい演奏で、ちゃちな再生装置でもったいないテープである。"Brechin...", "Duke of ...", "...Hackintosh" はアドバンスト・クラス向きの、けっしてやさしいとはいえない踊りであるが、"Espie..." とともっと踊られていい踊りで、テープ化を喜ぶ1人である。このシリーズ最後のVol. IVのリリースが待たれる。

評点 演奏★★★★☆ 録音★★★★☆

(To■)

\*\*\*\*\*

三原美智子さん 新宿CDCで活躍するほか、もっと基本を必要とするダンサーのために新宿アレフを作り、週1回昼夜の例会で精力的に指導されていた三原さんが、7月2日肺不全のために亡くなりました。新宿区で長年フォークダンスを指導されていた三原さんは、8年ほど前、松橋順子さんの研修に参加されてから、SCDに傾倒し始めました。ロシア文学、ことにチェホフがお好みで、"Three Bonnie Maidens"を『三姉妹』になぞらえて話しかけていたのが、ついこの間のようです。1990年にセントアンドリュースに行った後、英語をさらに勉強し、友情を深めたいと意欲を燃やされていた矢先の、早すぎる逝去でした。新宿アレフの会報をまとめ、同会のパーティで1冊の本として出版されました。この『ALEPH 通信』の文が三原さんのひととなりを表すものとして、多くの人の心に残ることでしょう。三原さんは、もっともって踊り続けたかったのに違いありません。「わたしが踊りたりなかったぶん、あなたたち踊ってね」という声が聞こえる気がします。

………ミチコ、ダスヴィダーニヤ。

(To■)

